

第5回 円山川流域委員会 議事録(概要版) 会議の概要

日時：平成15年9月17日(水)13時00分から17時20分

場所：豊岡市民会館4F大会議室(豊岡市)、円山川河口域(豊岡市・城崎町地内)

1. 開会

庶務担当の(株)東京建設コンサルタントが議事進行を行った。

2. 委員長挨拶

円山川流域委員会委員長 藤田裕一郎(岐阜大学 流域圏科学研究センター教授)が挨拶を行った。

3. 議事内容

- 3.1 現地視察：円山川河口域(豊岡市・城崎町地内)
- 3.2 報告
- 3.3 アンケートの実施と公開の程度
- 3.4 直轄管理区間の現地視察について
 - ・直轄管理区間の現地視察を振り返って
 - ・現地視察ルートマップ(直轄管理区間)の作成
- 3.5 アンケート結果に関する議論
 - ・今後の委員会の進め方
 - ・県管理区間の位置付けと現地視察
- 3.6 今後の情報の共有化に向けて
- 3.7 その他

4. 審議内容および決定事項

4.1 現地視察

- ・情報の共有化および流域現状の把握を目的として、事前に各委員に確認している視察ルートに沿って、舟を使った円山川河口域の現地視察を行った。()内は主な選定理由。

円山川河口(海との接点で河水の出口、多数の歴史的事物)

菊屋島・中ノ島(大規模な掘削と河川整備)

戸島(葦原景観と人々の暮らし、狭小な川幅)

ひのそ島(掘削と環境保全)

<主な意見・質問等>

- ・渡し舟の管理はどのようになっていたのか。(藤田委員)
県道である渡しは、明治期より県営であった。江戸時代までは、それぞれ対岸のどちらかの村が責任を持って管理していたようである。(山口委員)
- ・下流域の土砂堆積の経緯。いつ頃土砂がどんどん運ばれていたのか。(上田委員)
- ・円山川河口域において、港湾との関わりで浚渫工事が進められていたのはいつ頃か。(前田委員)
河床変動や河口部の説明は、今後、資料をもって、系統だった説明の中で行いたい。(河川管理者)

4.2 報告

- ・第4回円山川流域委員会での審議決定事項について庶務より以下のことが報告された。
 - 1)第4回委員会の現地視察ルートについては、終了時間及び復路交通を考慮して、円山川河口を除く以下の地点の視察を行うことが委員に了承され、引き続いて下記地点の現地視察が実施された。
軟弱地盤(八条ポンプ場)、塩津の堤防、豊岡市内の廃川、コウノトリの郷公園、六方川内水対策(六方排水機場)、KTR鉄道橋、野上の湿地、下鶴井のヨシ原、ひのそ島、左岸側無堤地区、奈佐川、一日市～宮島の堤防
 - 2)第5回以降の委員会の進め方について議論が行われ、以下の結論を得た。
第5回委員会は、9月上旬頃を予定とし、直轄管理区間で残された河口周辺の現地視察と情報の共有化に向けた議論を実施する。

視察の方法として、舟を使った視察、全体を見渡せる地点からの視察等について、今後、委員長、庶務で検討し、事前に委員に示して確認する。

第5回委員会に向け、現地視察の感想、意見、河川管理者への質問等について、各委員にアンケートを実施する。

今後の情報の共有化に向けて、第5回委員会の前に、河川管理者より流域や河川改修の現状把握についての説明メニューの提出を受ける。

3)第4回委員会以降の公表資料について、庶務より説明がなされた。

4.3 アンケートの実施と公開の程度

- ・第4回委員会の審議結果に基づき、第5回委員会の前に、各委員を対象として、アンケートを実施したこと及び設問内容が庶務より報告された(設問内容：現地視察を振り返って、今後の委員会の進め方、県管理区間とその流域の現地視察について、現地視察ルートマップの作成)。
- ・各委員の意見を集計し検討した結果、アンケートの公開の程度については「無記名による全面公開」としたことが委員長より、報告された。

4.4 直轄管理区間の現地視察について

- ・第3回及び第4回委員会で視察した地点の中で興味深かった地点及び関心を持った地点について、アンケート集計結果の報告が行われた。

アンケート集計結果（興味深かった・関心を持った地点）

地点名	分類	関心度			地点名	分類	関心度		
		0	6	3			0	6	3
円山川防災ステーション	治水	0	6	3	軟弱地盤(八条ポンプ場)	治水	10	6	0
野々庄～府市場の堤防	治水・景観	2	3	3	塩津の堤防	治水	3	5	3
上ノ郷河畔林	環境	6	6	1	豊岡市内の廃川	治水・景観	5	6	4
浅倉・赤崎地区	環境・治水	6	3	1	コウノトリの郷公園	環境・景観	4	6	2
蓼川井堰	環境・利水	5	7	1	六方川内水対策(六方排水機場)	治水	2	7	1
出石川直轄上流端	治水	1	4	4	KTR 鉄道橋	治水	4	5	1
六方川内水対策(小野川放水路)	治水	2	5	3	野上の湿地	環境・治水	5	6	1
新田井堰	環境・利水	1	5	4	下鶴井のヨシ原	環境	6	8	1
土淵より上流	環境・景観	0	3	4	ひのそ島	環境・治水	4	6	2
八代水門・排水機場	治水	1	5	3	左岸側無堤地区	治水	3	7	2
					奈佐川	治水	0	7	2
					一日市～宮島の堤防	治水	0	6	2

：大変興味深かった、
：興味深かった、
：ふつう
は、
：大変興味深かったが5人以上の地点。

- ・現在、庶務が作成している委員が独自に現地視察を行える直轄管理区間のルートマップについて、以下のことが了承された。

委員が独自に現地視察を行える直轄管理区間のルートマップは、これまでの推薦箇所に加えて、アンケートで得られた推薦箇所である以下の4地点を加えて作成することとする。

アメノヒボコ伝承のある大瀬戸・小瀬戸(歴史の視点)

円山川城崎漕艇場(川の活用の視点)

玄武洞公園(現在整備が進められつつある)

中ノ郷地区

4.5 アンケートに関する議論・今後の情報の共有化に向けて

- ・今後の委員会の進め方や県管理区間の位置付け、また今後の情報の共有化に向けて、アンケート結果も含めて議論が交わされた。

<主な意見等>

直轄管理区間の整備計画に対する県管理区間の位置付け

- ・議論の成果は提言としてまとめていくのか。(服部委員)
 提言としてまとめられれば良いが、それを前提にすると委員の負担が大きくなることもあり、議論の段階までも良いと考えている。(藤田委員)
- ・本流域委員会の対象範囲は直轄管理区間だが、上流域の県管理区間の視察及び検討が今後河川整備計画を考えて行く上でどのような位置付けになるのか。(服部委員)
 管理上の別け隔てなく円山川とその流域を考え、全体像を理解した上で、本委員会の対象範囲である直轄区間の整備計画を考えて行く必要がある。(前田委員、藤田委員、池田委員他)

その中で、何ができ、何ができないかを整理するように議論を進めていくべきである。(菅村委員)
情報の共有化に向けて

- ・現状を理解する一つ的手段として、整備計画原案を提示してほしい。(細田委員)
現状の段階で原案を提示すると議論がそこに集約し、円山川の本来あるべき姿が見にくくなる恐れがある。ある程度、現状認識を進めてから、提示されるほうが良い。(池田委員、沖村委員、藤田委員他)
- ・現行の直轄管理区間内の計画、また、県管理区間内の計画、これまで実施されてきた事業なども提示してほしい。(有本委員、前田委員)
できるだけ前向きに考えていきたいし、また本日示した現状説明メニューにも入れ込んでいるつもりではある。(河川管理者)
上流域については、庶務の方でも資料整理願いたい。(藤田委員)
- ・河川管理者から提示された現状説明メニューで補足する項目等について意見が交わされているが、項目・内容については河川管理者では対応が難しいものもある。そのようなものに関しては、委員が対応して行く必要がある。(上田委員)
- ・今後の流域委員会の進め方について、次のことが了承された。

- ・第6回委員会では、11月中旬ごろを予定とし、河川管理者からの円山川の現状説明を中心として実施する。
- ・第7回委員会は、県管理区間の現地視察を行うこととし、12月初旬ごろを予定とする。また、第8回委員会は、第6回委員会に続き、河川管理者からの円山川の現状説明を行うこととし、平成16年1月を予定とする。
- ・今後の情報の共有化に向けては、第5回委員会での委員から要望・意見及びアンケート結果から項目を庶務が集約した上で、それに関して議論を行い、追加・整理していくこととする。
- ・今後の委員会では、情報の共有化、流域の現状認識について議論した後、円山川のあるべき姿、望ましい円山川の姿について議論していく。

4.6 その他

- ・円山川漁協事務局より、委員会の委員構成や審議の進め方等について、問い合わせがあったことが、委員長、庶務より報告された。
- ・一般傍聴者より、河川のあるべき姿として、水質など水の問題をどのように把握していくかということで、生活者の視点は非常に重要であるとの主旨の意見を頂いた。